(5)　お腹が痛い

　腹痛は子供ではよくある訴えのひとつです。小さな子供は泣くことのみによって腹痛を表現したり、腹痛以外の痛みを腹痛として訴えることもあるので、注意が必要です。
　また、たびたび「お腹が痛い」と言う割にはすぐに元気に遊んでいることもよくありますし、朝になれば腹痛を訴える子供もいます。
　腹痛は排便で治ることもありますので、トイレに行かせても出ないなら、浣腸をしてみましょう。便もよく観察し、いつもと違うと思ったら医師のところへ持って行きましょう。小さな子供ならお腹をさすってあげるだけで落ち着くことも多いです。
　腹痛を訴えた場合の観察のポイントは、発症の仕方と経過（急性の激しい痛みなのか、反復性の痛みなのか）、部位（腹部全体の痛みなのか、右下腹部などの局所的な痛みなのか）、性状（周期的に強く痛むのか、弱い痛みが持続するのか）、随伴症状（ずいはんしょうじょう）（嘔吐、下痢、便秘、発熱）はないか、などです。

医療機関救急受診のポイント

（救急外来を受診しましょう）

- お腹をかがめて痛がり、顔色が悪い
- 右下腹部を痛がる
- 痛くて歩けない、もしくは連続してジャンプできない
- お腹を押すと強く痛がり、お腹を硬くする
- お腹が硬く張ってきた
- ぐったりしていて、泣いてばかりいる
- 激しく泣いてしばらく泣き止むことを繰り返す
- 頻回の嘔吐や下痢を伴っている
- 便に血液が混じっている
- お腹を強くぶつけた
- 股間（陰嚢(いんのう)や股のつけね）が腫れている

家庭での対処方法のポイント（Ｑ＆Ａ）

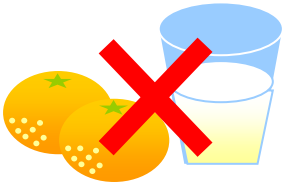
Ｑ１ お腹を痛がる時はまずどうするの？

　まず、お腹を触ってみましょう。お腹が張っていないか、柔らかく押しながら一定の場所に痛みを訴えるかどうかみてください。お腹をさすってあげても痛みが改善しない場合は、浣腸をしてみるのもひとつの方法です。次第に痛みが強くなるようなら医療機関を受診したほうが良いです。

Ｑ２ 子供がしょっちゅう「お腹が痛い」と言います。医療機関を受診した方が良いでしょうか？

いわゆる反復性腹痛（はんぷくせいふくつう）と呼ばれる疾患は子供では比較的多いとされています。特に年長児の場合は心因的なものが多いのですが、本当に病気である場合もあります。腹痛が頻繁に起こったり、痛がり方が異常ではないかと思われる場合は、医療機関救急受診のポイントで述べた症状がなければ、診察や検査に十分時間がとれる時間帯での受診をお勧めします。

Ｑ３ 食事はどうすればいいの？



強い痛みの時は無理に水分を与える必要はありません。軽くなったら、まず水分を少しずつ飲ませて様子をみましょう。腹痛がなくなったら、吐き気に注意して消化の良いものを少し食べさせてあげてください。オレンジ等の柑橘類や牛乳等の乳製品は控えてください。

この症状によくみられる代表的な病気は？

- 腸管感染症（ウイルス、細菌）
- 便秘症
- 腸重積症（ちょうじゅうせきしょう）
- 急性虫垂炎（きゅうせいちゅうすいえん）（盲腸）
- 腹膜炎(ふくまくえん)
- 消化性潰瘍（胃潰瘍、十二指腸潰瘍）
- 胃炎
- 急性膵炎（きゅうせいすいえん）
- ソケイヘルニア嵌頓（かんとん）（脱腸が出たまま戻らない状態）
- 腹部外傷
- 反復性腹痛（心因性）